

新旧交歓座談会



参加者

旧高第14回(S17年)	丹沢章浩	旧高第23回(S24修)	岡田良元
旧高第18回(S20年)	小沢貞一郎	旧高第23回(S24修)	村瀬功
旧高第19回(S22年)	高橋和夫	新高第3回(S26卒)	寺田正明
旧高第19回(S22年)	津田淳一	新高第3回(S26卒)	上原義洋
旧高第19回(S22年)	平子良	新高第3回(S26卒)	石田直樹
旧高第19回(S22年)	村瀬泰一	司会 新高第27回(S50卒)	西山和年
旧高第19回(S22年)	中井陽作	記録 新高第33回(S50卒)	中尾容子
旧高第19回(S22年)	福田龍三	記録 新大マネージャー	大村由美
旧高第21回(S24年)	新井倫夫		
旧高第21回(S24年)	村瀬友三郎		

司会 本日は、ご多忙の中、多数の方に、お集まりいただきまして、ありがとうございます。今回は、旧制高校出身の方を中心に、終戦直後、全国優勝をはたしたという、輝かしい当時の話を含めまして、なつかしいクラブ活動のお話を聞かせていただければと、思っております。

村瀬(友) あれは、たしか中井陽作さんと山田寿一さんが、三年で、バジャ(新井倫夫)が、1年の時かな。

福田 昭和21年でしたかね。京都で行なわれた、競泳のインターハイで、優勝したのは。京都・三高のブルだったかな。

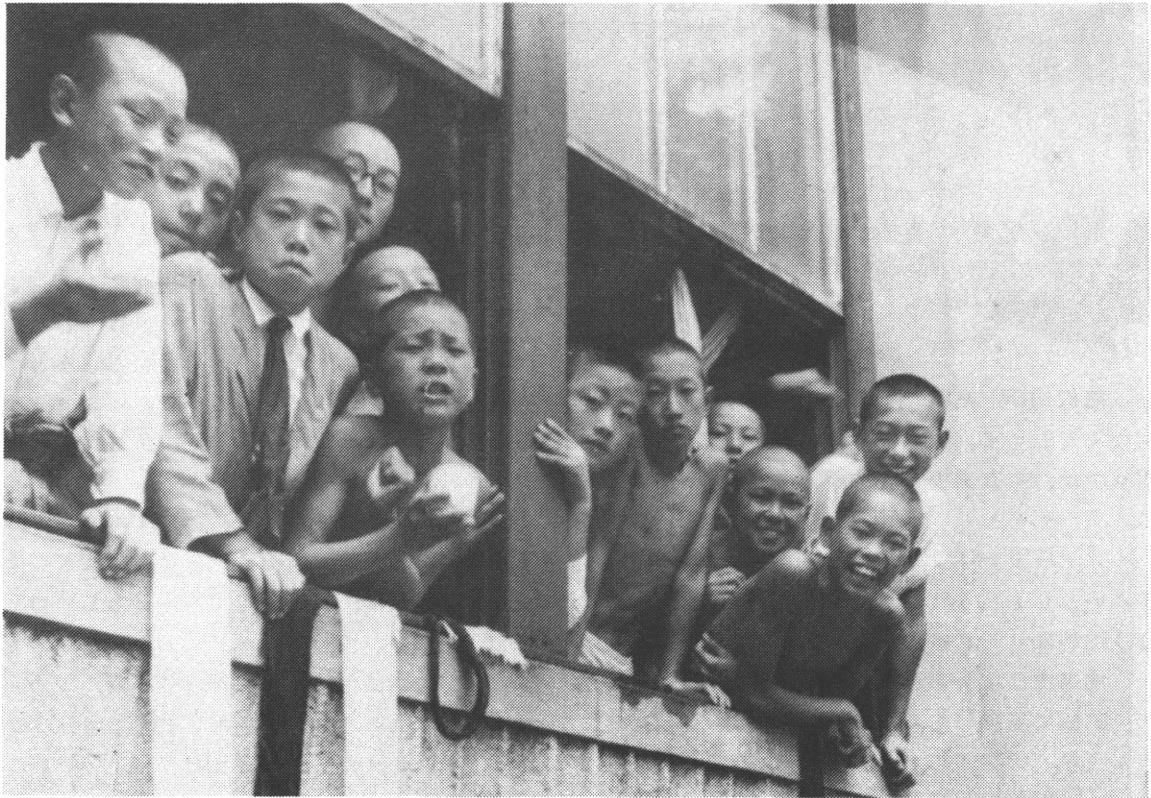
村瀬(泰) 夜行かなにかで、12~13時間かけて、京都まで行きましたね。

平子 あの時の東部予選では、たしか東高につぐ二位の成績だったと思うけど。

中井 三百米の、メドレーリレーで優勝したおぼえはあるよ。

福田 陽作とカブ(村瀬泰一)と僕の三人のメンバーだったかな。

中井 龍三は、二百米の平泳ぎも優勝したよね。それと、カブが、百米のフリーで優勝したような記憶もあるけれど。



村瀬(泰) フリーではたしか、平子が八百米で2位じゃなかったかな。それと、三位になった八百米のリレーに、平子もいたね。

平子 愚猿(田中義昭)と寿一(山田寿一)もたしか、あの時のメンバーだと思ったけれど。とにかく競泳で、成城が全国大会で優勝したのは、後にも先にも、あれ一度だけと聞いています。あの物資のない時代に、運が良かったとはいえ、みんなよく頑張りました。

寺田 僕らの代は、24年に、水球で、全国大会に準優勝したと思ったな。

上原 ああ、あれだろ。関東予選では、慶応に勝って、一位でいったんだけど、決勝でまた慶応とあたって、4対3で負けたという。

寺田 そうそう。あの甲子園プールで、くやしい思いをしたな。キャプテンが、岡田良元さんの時かな。

上原 監督がバジャさんで、ツト(村瀬功)さんと、テラポン(寺田正明)が、ボックスだと思ったけど。

村瀬(友) 門田がキーパーで、ドカタ(上原義洋)と良元がフォワードで、市毛と森洋がハーフではないかな。

上原 良元先輩のバックシュートがなにせすごくてね。まさに、優勝のキーポイントでしたよ。

岡田(良) いや、あの時代昭和24年は、あまりにも水球のラフプレーが目立って、水泳連盟が、南米ルールを採用した時代なんですよ。その南米ルールというのが、極端にフォワードに有利なルールでね。今のように、ボールを持っている人にアタックしてはいけなかった。だから、パスやシュートも相手の身体に触れないで、カットしなければならぬんですね。逆に言うと、バックシュートが楽にできました。

福田 それと、4mライン内には、ドリブル以外は進入できないと思ったな。

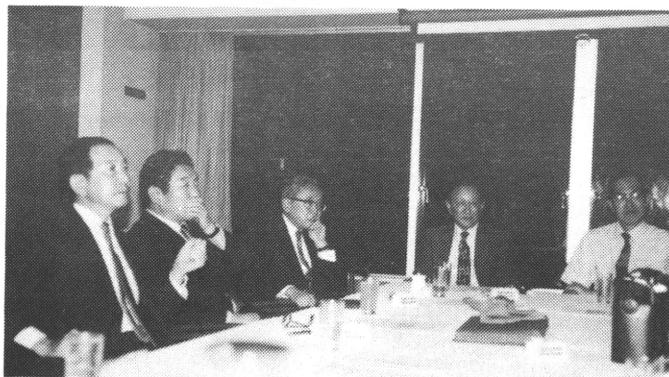
村瀬(友) あの時だよ。ツト(村瀬功)さんが、ゴール中に入って、キーパーの門田といっしょに、ディフェンスをしたのは。

上原 それで、市毛と森洋が、中盤で、ピストンをしたんだよ。

司会 当時、全国大会に出場した学校数は、どのくらいなんですか。

福田 全国で30校くらいかな。ただあの大会は、新制にかわってからの試合ですから。

丹沢 旧制のポロも数が少なかったようです。ナンバースクール(1から8まである)のないところに官制の高校があつてね。それと、成城のような、七



左より 丹沢 小沢 高橋 村瀬(泰) 平子(良)

年制高校をたしても、たいした数になりません。関東のボロでは、東京高校と、成蹊が強かったと思いますね。

石田 インターカレッジ(学生選手権大会)も高校と大学がいっしょだったように記憶しています。

村瀬(友)旧制はリーグ戦も、高校と大学が同じリーグで、成城高校は、たしか三部で、良元が高校にいる時に、三部で優勝して、モタカン(鱒さん)が大学三年か四年の時、2部で優勝して、一部へ上がったんじゃないかな。

岡田(良)僕が大学1年の時ですよ。既成校でリーグを作って、成城が三部に入って、春のリーグで優勝したのは、昭和25年でしたか。

村瀬(友)あの最初の試合、まだ憶えているよ。日大のヒモンヤのプールで部員が足りなくて、7人いないと試合が始められないんです。そこで見学者を1人入れましてね。その人全然、泳げなくてね。途中で「足がつった」ということであがってもらって、6人で試合したんです。それでも勝ちました。

寺田 そんなこともありました。そういえば、私が高校3年の時、今は、亡くなられたタツさん(村瀬竜也)さんが監督で来られてまして。当時、1年だったゴン(山本健さん。慶応大学を経てゴールキーパーとしてローマオリンピックへ出場)を特訓するんだということで、タオルの上から、熱湯を浴びせたようなことがありました。

上原 あれは、たまげたね。あの人は、とにかく、すごい。常識では考えられないことを、平気でやらせましたから。おかげで、強力なチームができ上がりましたが。

石田 あの当時は、10月から翌年の4月までのシーズンオフに、みんないろんなことを、かけ持

ちでやっていましたね。タツ公も、たしか、ラクビーのフルバックで、全国大会へ出たんじゃないかな。上原 そうそう、裏番組でも、活躍していた奴が沢山いたよ。タツ公は、陸上でもインターハイへ行ったんじゃないかな。

石田 陸上と言えば、今日来られている高橋さんはマラソンで、大活躍されていましたね。

高橋 僕の場合は、もともと陸上競技をずっとやってたものですから、水泳部のほうは、むしろお手伝いとして、一年間だけ、お世話になったわけで。

村瀬(友)山田寿一が、サッカーで、インターハイの決勝あたりまでいって、1対0で負けたと聞いているけれど。

福田 プール乞食の富田は、演劇でもかなり、名が通っていましたね。それから、学生時代に亡くなった立花君、奴は、文学少年で、素晴らしい詩(P63に掲載)を書いていました。

村瀬功 彼とは、同期でした。彼が死んでから、生前の作品を集めまして遺稿集(P62参照)を出したんです。それに私も書きましてね。いい奴でした。

寺田 そう言えば、良元なんかと合宿をしている時祖師谷の、線路際のあの警察の前の家の子供が、プールで死んだでしょう。

岡田良 家から連絡があっただろ。「プールに遊びに



白井 誠 作品



いったはずですけど、戻ってきません」って。あわててみんなで捜したんですよ。

村瀬功 こけだらけで緑色の水でしたから、当然底なんか見えませんよ。

石田 「何か足にぶつかるものがある」というんで、あわてて引き上げたら、人だったんですね。

良田元 村本のおじさんを、呼んできて、急いで人工呼吸をしたんですが、すでに手遅れでした。

寺田 かわいそうなことをしました。その日の晩、何人かで、お通夜に行きました。

良田元 まだプールを、町の人達に一般公開していた頃ですよ。

寺田 そういえば、あの晩か、たしか次の晩、タツコーが、夕飯を食べた後、「まだもう一人、沈んでいるかもしれない。泳ごう。練習だ。」と言い出して、一人一人、コースごとになって、夜中まで泳いだ記憶があります。なにせ、彼の趣味で練習をやらされているようなところがありまして、メチャクチャでしたね。

上原 でも、あの頃は、楽しかったよ。終戦直後でほんとうに、食べる物にも相当、不自由していましたが。

石田 食べ物と言えば、イモとかすいとんばかり。

村瀬(友) 日大のプールに試合に行ったときかな。奴らも、皆んな糸をひいているようなパンを平気で食べていてね。

村瀬功 食べ盛りだから、とにかく、四六時中、腹がへって、ドカベン持ってくるんだけど、中味があんまり入ってないから、なんとか、空腹を満たそうと、水の飲みっこをしたんです。

石田 それで一番 飲んだのが新井さん。

津田 とにかく、食べるものがなくて、試合前にピ

タミンBを注射したのを覚えています。

上原 そういえば、愚猿さんの庭で、耐労会かなにかを盛大にやったのは、いつでしたっけ。

福田 競泳の全国大会で団体優勝した後ですよ。昭和21年かな。

村瀬(友) そうそう。なんにもなくてね。成城の町を駆けまわって、酒をかき集めました。えたいの知れない酒も随分、混じっていたようで、ぶどう酒もあったかな。酒がしまいにはなくなって、みりんまでできたと思ったけれど。

平子 あの時生まれて初めて丹沢さんにぶどう酒を飲まされました。

上原 食べるものがないから、つまみなして、じゃんじゃん飲み始めたら、気持ち悪くなって、みんなで、庭に穴を掘って、そこにゲーゲーはいちまった。

寺田 酒なんか、普段は、手に入らないし、学生だから、飲み方知らないし、それに、当時、騒がれた古橋や橋爪でさえ、グリーンピースくらいしか食べられない程、食糧事情が悪かったんだから無理ないね。

村瀬(友) 人伝に聞くと、彼らは、世界記録をだすと、先輩から焼鳥をたら腹、食べさせてもらえるんで、釣られて頑張ったとか。今では考えられないことですよ。

新井 当時、日大とも、ポロの試合をやりましたから、私も古橋や、橋爪のマークにつきました。

岡田(良) 彼らは、ポロの練習をあまりしていなかったから、決して、うまくはなかったけれど、泳力では、格段の差がありますからね。圧倒されました。迫力が違いますよ。

司会 ところで、当時の合宿の様子はいかがでした。丹沢 尋常科の最初の合宿は、たしか「千本木」のように記憶していますが。「千本木」というのは下宿屋の名前でね。

平子 プールの裏の道をのぼって、大通りに出て、2軒目ぐらいの所にありました。



左側より 上原、福田、石田、小沢



左側より 村瀬 功 岡田良元

小沢 普通の下宿屋さんみたいな所で。夏は学生が帰省するんで、合宿に使わせてもらったんですよ。

村瀬(泰) あの当時は、オフシーズンも、丹沢さんにしぼられてね。体操だけで、3時間ぐらいぶっ通しでやりました。

丹沢 いろいろメニューを決めてやりましたね。ダッシュを“激泳”と言っていた頃ですよ。

上原 僕らの最初の合宿は、昔の女学校の校舎でね。机を並べて、ゴザをひいて、その上にふとんをして寝たんじゃないかな。女の子に御飯とみそ汁を作ってもらって、コロッケのような揚げ物を買ってきて食べたような気がするけれど。

石田 池の反対側の祖師谷の方に、小さな寮みたいな所で合宿しなかったっけ。きぬた屋の二階で合宿したのはもう少し前ですか。

上原 僕の大学の頃は、成城のプールのすぐ横の小さな建物で寝泊まりしていたと思ったけれど。下がお風呂で、二階で寝泊まりしていたかな。

村瀬(友) 僕が監督をしていたアー坊(山本勉)の世代は、プール横の建物だったね。グチャ(安井昌平)がめしを焚いて、よく練習したね。

福田 プールそうじもよくやりました。なにせ、今のような浄化装置もありませんし、夏場だったら、水をかえて、1週間もたつと、コケで下のコースラインが見えなくなるんですから。

津田 僕らの終戦直後というのは、カルキも、ろくにありませんでしたから。どこからか、石油かんでもってきて、バラまきました。

寺田 カルキと言えば、あれにさわっていると、指紋がとれちゃうんですよ。

福田 でも、あれがないと、コケがはえてどうしようもありませんから。しかし、よくまあ、あの汚な

い水で、誰も病気をしなかったな。

寺田 家に帰って頭を洗うと、水が緑色になるし、藻はでてくるわで。

福田 アオミドロが、水面いっぱいになると、こっちも調子が出てきたりしてね。水が、なま暖かいんですよ。一度、春先に、水温が異常に上がった時がありまして、オタマジャクシが、大発生したんです。平泳ぎで水をかきわける時に、手に沢山つくんです。さすがに気持ち悪くなりまして、すぐに水をかえましたけれど。

石田 しかし、あれだけ汚なくても、病気はなかったんですから不思議です。赤痢や疫痢が日常茶飯の時代でしたからね。丈夫だったんでしょうか。そう言えば、あの時の校医が、成城の生徒には、「回虫がほとんどない」と感心していましたから、やはり生活環境も良かったんでしょうか。

上原 でも、例外はあるな。病気と言えるかどうかわかりませんが、例の市毛の産婦人科事件。

寺田 ああ、あのインキンの一件ね。

福田 かかっていた人は多かったと思うけど、彼の場合、重傷だと聞いてましたが。

上原 重傷には違いないんだけど、タツ公が、「ヘソから下の病気は産婦人科でみてもらえ」なんて、いい加減なこと言って、連れていったもんだから。あの台にのせられてね。おそらく男で経験できたのは木下病院始まって以来、彼が最初で、最後だと思うね。

石田 かわいそうに。部の語り草になってしまいました。僕の場合は、慢性結膜炎にかかりまして、これが直らなくて、苦労しました。

小沢 まあしかし、広いプールですから、簡単にはそうじもできませんし、一度、水を抜くと、モータ





新井 倫夫 (パシャ)

一を夜中までフル回転させて、入れ替えに丸三日かかりましたから。

上原 夜中まで、動かし続けると、モーターが焼き切れてしまうんで、泊り込みで、モーターを休ませる番をしました。

石田 デッキブラシもなくて、たしか竹のほうきでそうじをしました。

上原 冬は、プールの中で、ソフトボールをしなかつたっけ。

平子 そうですね。私も、小学校から水泳部に、お世話になりました。いろんな先輩に遊んでいただきました。

村瀬(泰) 小学校から始まって、尋常科、高等科と上下のつながりは、同じプールで練習する関係もありまして、非常に密接です。ですから、水泳部全体が、大家族みたいで私の所も、第3人共、水泳部にお世話になりました。同期では、短距離の速かった愚猿、長距離の平子(兄)。この二人は、尋常科から数えて7年間いっしょでしたね。

小沢 私も、卒業してから何回も遊びに行きまして昭和21年の、全国大会で優勝した京都へもOBとして参加しました。

福田 そうして、OBになってからも、後進の育成に尽力を注いで下さる先輩が沢山いられるから、水泳部も強くなったんですね。今日、来られている丹沢さんもそうですね。

丹沢 私の後に、テー坊(小沢さん)おトン(山本勝さん)パシャ(新井さん)タツ公(村瀬竜也さん)と名監督が続きまして、特に亡くなられたタツ公が監督の頃、ドカタヤテラボン、門田、市毛等が選手

として活躍して、第二期黄金時代を築きましたね。

石田 強いチームというと、すぐ“しごき”というイメージが沸いてきますが、成城の強い雰囲気というのは、他校のようなスパルタ式の練習方法とは、少々異なるんです。なにせ、上下関係が全く違う。下級生が上級生をあだ名で呼ぶんですから。他の学校では、考えられませんよ。小学生に、あだ名で呼ばれても、怒る人など一人もいなかった。小学生があだ名を呼びかけて、親しく寄ってきた。もちろんからかうことはあるにせよ、陰湿な“下級生いじめ”みたいなものはなかった。第一、頭のいい先輩が多かったから、やることはスマートで科学的だった。

上原 それに、もう一つ強い要因として、半分水泳部で、半分違うような“プール乞食”が沢山いました。この層が厚くて、水泳部の豊富な選手層を形造りました。会田のキョちゃんとか、ガム(岡田良二さん)とかね。

司会 ガムというあだ名は、どこからついたんですか。

岡田良 ちょうど、ガムをかんで、ペッとほき出したような顔をしていたからだと思ったけれど。

上原 でも、こうした“水泳部浪人”みたいな人がお風呂たいたりして、めんどろ見てくれてね。試合でも、人数が足りない時は、ピンチヒッターとして、いろいろと、協力してくれたし。

寺田 そう言えば、武富礼二も、岡田良二も、プール乞食の仲間だな。

石田 キョちゃんは、口が大きくて、げんこつが、口の中に納まるんだからおかしかった。『フクちゃん』というマンガに出てくるキョちゃんにそっくりだから、そう命名されたと思うけど。

福田 白井先輩が、よくみんなの特徴をスケッチしていましたね。

上原 とにかく、何世代もの先輩を、あだ名で呼んで、気軽に話せる成城の良い雰囲気を、今の世代にも受け継いでほしいですね。